

HSK

どろじん

第 25 号

昭和48年1月13日 第3種郵便物認可
H.S.K通巻206号

発行日 平成元年6月10日
(毎月10日発行)

編集 北海道腎臓病患者連絡協議会
札幌市北区北35条西5丁目1-10
AMS南麻生308号

発行 北海道身体障害者団体定期刊行物協会
札幌市北区北13条西1丁目
神原義郎

平成元年 初夏号

私達をめぐる医療・福祉の全国的状況
『投稿』 沖縄旅行



夏：大地に生きる（美瑛町）河口道夫氏撮影

北海道腎臓病患者連絡協議会

私達をめぐる医療・福祉の全国的状況

現在近畿地方の一部の県では、都道府県独自の事業である、身体障害者医療費助成事業で所得制限を設けて実質的に廃止されています。その結果、大部分の透析患者が、一万円を自己負担しています。また、透析以外の病気で、加入している健康保険の給付割合に応じて、自己負担をさせられています。

一、全国二十九地域に腎疾患対策推進・検討機関が設けられました。

二、厚生省平成元年度予算で腎不全予防費を継続し、移植関係費も増額。国立佐倉病院に、臨床研究部門を設置、腎不全の予防・長期透析患者の合併症の研究などを新規事業として予算措置をされています。

三、一部の病院では、最初から画一的にCAPDを導入しているところもあり、患者が選択する余地がありません。

四、都道府県単独の医療費助成事業では一部の県で一部打ち切りあるいは所得制限（総収入二百五十万円～三百万円以下）を設

けて廃止されています。その結果、毎月一万円を自己負担、または更正医療で所得に応じて負担されています。

五、国民年金の障害基礎年金二級非該当となつて、障害年金の支給停止という事態が発生。これは、基礎年金制度が導入されその認定基準に「人工透析施行中のものは原則三級とする」とあることから、国民年金と厚生年金では、認定級が違つたので障害年金を申請、または現況届を出す時は注意することが必要です。

六、十月十五日、エリスロポエチンの早期製造承認（二社が申請）について厚生省薬務局に申し入

れを行いました。

七、消費税導入に伴う薬価基準は、平均二・七%、診療報酬は、〇・一二%の引き上げ。また、今年の五月から高額療養者自己負担限度額が引き上げられ、一般は五万四千円から五万七千円に、低所得者は三万円から三万一千八百円になりました。

以上のようなことが大まかな医療福祉をめぐる全国的な状況であります。ここでひとつ大きな問題点があります。それは四で報告しました県単事業の透析患者への実質的排除であります。北海道ではいわゆる「 ∞ 」と呼ばれているものです。これが適用されなくなると

いう事は重大な問題です。という

ことは、透析で一ヶ月一万円を支払い、そして内科・外科・歯科などの病気になった場合、健康保険の給付割合に応じて自己負担をしなければなりません。慢性腎不全という病気は長期的になればなる程全身にいろんな症状が出てくるものです。

この様に私達透析患者をめぐる状況は非常に厳しいものがあります。私達、患者は、常に医療・福祉の後退には声をあげて反対して行かなければなりません。その為にも患者会員の一層の団結が必要でしょう。

第二十六回

4月8日・9日

道腎協ブロック会議開催される

平成元年四月八・九日と北海道難病センターにおいて役員・役員代理・オブザーバー・事務局員合計三十二名により、第二十六回のブロック会議が開催されました。開会后、役員及び同じ仲間の逝去を悼み全員で黙祷を捧げ冥福を祈りました。

岩崎会長の挨拶の後、旭川地方腎友会の柳本会長を議長に選出して議事に入って行きました。

一、報告事項

- (一) 全腎協運営委員会報告
 - (二) 全腎協幹事会報告
 - (三) 各ブロック活動報告
- 特記事項

夕張ブロックで会運営資金に市より年間五万円の援助実施。市内のタクシー利用券が年間二十枚基本料金援助実施。

(四) 医療福祉の全国的な状況

二、討議事項

- 総会提出議案について
- (一) 昭和六十三年活動報告
 - (二) 昭和六十三年度決算報告
 - (三) 平成元年度活動方針案
 - (四) 平成元年度予算案



- (五) 平成元年度新役員案
 - (六) スローガン・総会宣言案
 - (七) 入会のしおり作成について
 - (八) 全腎協分担金値上について
- 平成二年五月の全腎協総会后に現行一ヶ月百円を百五十円に値上したいとの通知が来ています。



- (九) 道腎協第十二回総会について
- 今回のブロック会議でも各ブロック役員の方が活発に討議され、九日午前十一時半迄沢山の意見が提出され無事終了しました。
- 二日連続、休憩も少ない中、各役員の皆様おつかれさまでした。

全腎協第五十五回幹事会報告

全腎協幹事 札幌腎臓病患者友の会

川村 隆志



第五十五回幹事会は、三月十八日、十九日の両日に渡り、場所を日本青年館に於いて開かれました。今回は、討議事項の中より、第十九回総会に提出する主な内容について報告致します。

一九八八年度下半期活動報告より国の腎不全対策では、厚生省予算で腎不全対策費の新規事業として腎不全医療研究費が認められたこと。また、国立佐倉病院に臨床研究部門を設置する為の要求も認められた等の報告がありました。陳情・請願活動では「臓器移植促進」請願の結果、衆院・参院と

もに「保留」とされたこと。

第十八次国会請願署名・募金運動では署名簿を持って要請行動を行うこととしていること。

JR運賃の身障者割引対象拡大の運動では六社営業部長会議で全社実施を合意したとの報告があったということ。

一九八九年度活動方針案については、

私たちをめぐる状況の中で、消費税導入に伴う生活への影響・国民医療法の改正が行われることにより、医療費の抑制をめざす方針を示している具体的には自己負担が二割となることがある為充分警戒していく必要があること。

年金問題では、今年、五年に一度の年金制度の「改正」の年にあたる為生活の基盤となるような、安定的な所得保障を確保すること。その他例年行なわれている腎不全

対策・脳死臓器移植等の問題が提起されました。

活動目標と会の運営に関しては次の内容が出されました。

- ① 腎疾患対策推進・検討機関の全都道府県への設置をめざす。
- ② 財政難のもとでの会費値上げを検討していくために「全国会長会議」を開催する。
- ③ 会員数を五万四千人とすること

をめざし毎年四月を組織強化月

間として会員勧誘に取り組み、

全国的な組織活動の強化をめざす。

その他十四項目の内容が承認されました。

このほか、スローガン案、総会宣言案については、運営委員に一人任せ、二日間の日程を終えました。

第十八次国会請願結果報告

国会請願に参加して

札幌腎臓病患者友の会

かけはし
棧

勇



私は、今年の三月三十日に東京、永田町にあります衆議院、参議院の議員会館へ腎疾患総合対策の早期確立を請願する為に行って参りました。東京永田町には国会議事堂を始め国の行政の要めと言われる機関のある所だけに、衆議院の



北海道より行った、廣岡さん、榎さん、西木戸さん(左より)

第一会館、第二会館、参議院会館など数多くの建物があり、それだけで一つの町を作っているようです。私達請願代表者は、東京を含め各都道府県より二名合計約百五十名、その他全腎協の役員、応援議員、秘書を含め会場となった衆議院の第二会館第一会議室は満員でした。全腎協の油井清治会長のあいさつにつづいて、各党派の応援議員のあいさつをいただき、すぐ請願の為の要領の説明を受け、北海道より参加している三名の代表者、廣岡達夫、西木戸隆博、榎

勇が一つのグループになって、各党派の議員さんに全国の会員の皆さんにお願いをして署名をしていただいた腎疾総合対策の早期確立を要望する請願書、約六十万分を持参して、各議員を訪問して衆議院議長に提出をしていただく紹介議員になって下さるようお願いをしてきました。北海道の紹介議員は全部で十三名でした。衆議院が九名(内第一会館四名、第二会館が五名)、参議院が四名でした。国会が開催されていた為、十三名中議員に面接できたのは、四名でした。あとは、秘書に説明をして、手渡してきました。面接できた議員の中には大変気持ち良く紹介議員になっていただけるとの事で、うれしかったです。

その他面接できた議員の方でも健保の費用の心配だけをして腎疾患者の要請の主旨を理解していただけなかった議員がいた事も事実です。他は秘書の方に手渡してきてのですが、地元の後援会との連絡が悪く大変でこずった所もありますが、全体的には、主旨を理解してくれたと思います。当日は午前十時より午後三時頃まででした



が、油井会長のあいさつから議員の面接まで済ませて思った事は何の為に高い旅費を払い、時間をかけ、だれの為に請願をしたのか、帰りの道すがら考えてみました所、だれの為でもなく自分の為だ、自分の為が、人の為になる、もう少し前でしたら多分、私は死んでいただろうと思いました。

腎不全患者に対する理解も少ないし、透析の施設も少なく、もしあったとしても費用の面で大変であり、腎不全で亡くなった先輩が、本当に苦しんで、地方自治体や国

会、あるいは厚生省に血肉をかけたお願いし、いや戦った結果が現在の透析だろうと思います。いずれにしても請願に集まった仲間内で願う事は、是非、腎友会に加入していかない仲間の皆さんも全員が腎友会に加入して、これからは私達が医療を受ける権利を主張すると同じに、腎疾患総合対策の必要性をうったえていこうではありませんか。



病院・患者紹介

10

すとう泌尿器科病院(帯広)

我が病院が大きく変った

すとう病院が大きくきれいに変わり、透析の機械も自動式が増え、患者の皆様が楽に透析し病院に来るのが楽しみの様子です。

今までの倍の広さ、四階建の大きさに、入院室もきれいになってさらに第一、第二の診察室もでき、須藤先生、新しく病院に勤められた高山先生の二人で診療に当って

おります。次から次へと新しい機械へと良くなった事で、患者も具合の良くなる人が以前から見ると大変多くなっております。

ベット数も倍近く増え、平野事務長さん始め、看護婦さん達のきびんな行動に感謝致しております。看護婦さん達は美人が多く、先生方は、やさしく患者に対し相談のつて下さいます。患者のみんなも気軽に語り合える心の安心感があります。

又患者同志で、食事のこと、具合悪い時は永年経験者の人の話しを聞いては参考にして、より楽しい生活に頑張っております。

特に、透析歴十四年の岡崎輝幸さん、十三年の沼田孝子さん二名が元気で通院しており、皆様の手



本として勇気づけられております。

今後一生、命有る限り透析患者として病院にお世話になり、又患者同志も仲良く相互に協力し共に透析していかねばなりません。

すとう病院の患者で腎友会を作りました。理解を求め、全員三十六名が会員になってもらいました。会も作った事で、会長に畠正吉さん、副会長に木村幸雄さん一年間の行事の計画も立て、花見、総会、

新年会、レクレーション等決め、患者同志の交流、また、家族の人達も協力を願い、共に参加し楽しい一日を過ごしております。

病院の方と患者の合同新年会も催しました。ゲーム、カラオケ大会と看護婦さん患者と次から次と

歌がとび出し、須藤先生の「君恋し」の歌が大かっさいでした。楽しく終了し皆んなで、はしやぎ、記念写真をとり、シャッターを何回も押し写真の出来るのを楽しみ期待しておりますが、フィルムの入っていないカメラで写した事が残念でなりません。

この新年会の看護婦さんや患者との交流で人と人とのふれ合いをみる事が出来ました。

共に信頼関係で毎日が楽しく治療出来る思いです。明るくいいきとした病院、患者も明るくいいきとし一生を過ごし毎日の生きる道を一步一步ふみ出していきたいものです。道腎協会員の皆様も元気で明るい毎日をお送り下さい。

フレッツク便利

留萌フロック

定期総会開催

去る四月二日(日)の午前十時より留萌市の消費生活センター和

室で本年度の定期総会が実施されました。

今年の総会は久しぶりの留萌市での開催でしたが、会員のみさんの事情により出席率にぶく過半数には達しませんでした。開会に先立ち、この一年間に亡くなられた方々に対し、一分間の黙祷を捧げました。

次に開会の後、池田会長が挨拶に立ち、この一年間の活動についての総括をして、会の結束を強く訴えました。

次に六三年度の活動経過報告が豊島氏よりなされ、会員の会活動への参加について、レクリエーション、腎登録キャンペーン、国会請



願署名募金運動などの成果が報告され、会計報告が阿部氏より会計監査報告が伊藤進氏より行なわれました。

そして新年度の活動方針では、まず道腎協や留身協への連絡調整強化、レクリエーションについては、各行事について担当役員を出し負担を軽減すること。そして毎年行なわれている腎キャンペーンや国会請願運動について実施するための意義や今までの成果などについて討論されました。

特に国会請願関係では署名運動は毎年あたりまえのように行なわれていますが、私たちがこの厳しい透析生活を維持し向上させていくためには必要な事なのだとこのことを確認しました。

さらに懸案となっている羽幌町への透析施設誘致について粘り強く署名運動を行なう事など総括して各自が会活動へ肉体だけでなく精神的に参加することによって、この患者会の意義があるのではないかという事が確認されました。続いて新年度会計予算の方では特に昨年度は慶弔関係の支出が増大した事に関し、慶弔規定の見直

しが行なわれました。

最後に今年役員改選の年ですが、一部改選されましたが全員参加の活動という事で、それぞれ腎友会、留身協関係に選出されました。このようにして役員も決まり、

網走ブロック

優勝は阿部武司さん

道東カラオケ予選 圧倒的に強い斜里勢

この体制で二年間活動していく事になりました。

この後昼食へと移り、研修旅行の行き先が検討され、今年北海道の枝幸方面へ行く事になりました。

(報告 豊島)

四月二十七日(木) PM十八時

網走セントラルホテルにおいて道東カラオケ予選会又郷田二郎(佐藤二三雄・透析五年旭川)新曲発表(男の舞台)が開かれ、オホーツク腎友会も郷田氏との縁で協賛と言う方で協力させていただきました。

これからも郷田氏をもりあげていきたいと思えます。

網走演歌友の会(会長・原田幸一オホーツク腎友会会長)主催の道東地区カラオケ予選会が二十七日夜、網走セントラルホテルで開かれた。

地元網走をはじめ斜里、美幌など近隣町村から歌自慢十六人が出場、ノドを競いあった。聴衆はざつと二百人。みなカラオケファンらしく出場者がステージに立つたび温く拍手で迎え歌い終わるとまた拍手。自分も歌っている気分です。予選会を楽しんでいた。

審査の結果、北島三郎の「年輪」を美声で歌いあげた阿部武司さん(斜里町)が優勝。後日、札幌で開かれるキングレコード・カラオケ道大会に出場する。入賞者は斜里勢が圧倒的に多く一位から三位までと歌唱賞、努力賞を獲得。残っ



自慢のノドを競う出演者たち

た賞、敢闘賞は川田泰正さん（網走市）が手にした。

この予選会には網走市出身のキングレコードの新人歌手・郷田二郎さん（32）＝本名・佐藤二三雄＝が審査員、ゲスト出演者として参加した。郷田さんは難病の慢性腎不全で透析を受けている病歴がある。この縁で腎臓病の人たちの支援団体、オホーツク腎友会が協賛したこの予選会にすすんで参加した。網走新聞（4月29日（土）より）
（報告 清水）

透析人生

★氏名 山本光雄
★年齢 五十才
★職業 会社員
★住所 札幌市中央区

★透析歴
★通院病院 渡井医院
★家族 四人

一、透析導入までの経過

五十二年十月、私は青函トンネル工事に従事、風邪により腎不全となり青森県今別町より苦小牧の



王子病院に入院、約一ヶ月間腹膜灌流を行い、十二月始めより札幌医大に転院。透析開始後、渡井医院に移り（五十三年一月）三月に退院、当初週二回から週三回に移行致しました。

二、現在の日常生活はどう過ごしているか

現在も土木建設業の仕事を続けていますが、透析は夜間（四時三十分）に入っています。（月、水、金）

透析のない日は友人達とコミュニケーションで酒を飲んだりしてリフレッシュしています。

三、体重増加はどのくらいか

一日で二kg、二日で三kgくらい

四、食事などの自己管理で注意している事は

透析導入時は塩分、カリウムな

ど計算していましたが現在は「カシ」でやっています。良く食べ良く動く事と思っています。

五、体力維持に対する工夫は

一ヶ月二〜三回水泳をしています。その後、スポーツクラブです。その後、スカットとしています。のでサウナでスカットとしています。健康者に劣らない日常生活を心がける事です。

六、将来に対する希望は

現在は体力が充実していますので、近い将来、昔（二十年前）三年間ヨーロッパで生活した。西独に行く予定で頑張っています。

ヨーロッパの透析病院、特に西独の状況など知っている方がいましたらお知らせ下さい。

七、仲間には言いたい事、聞かせたい事はないですか

透析に入っても病気に負けず、健康者に劣らない日常生活を心がけ自己管理（水分、塩分、カリウム等）に注意。しかし、あまりにもこの事はかり考えていると気持ちが悪く感じます。

投稿

道賢協企画
沖繩旅行

「沖繩五泊六日」
の旅に参加して

遠軽町(元、丸瀬布小学校長)

後藤 和雄

現職の頃より、機会あることに「旅を楽しむ」ことが趣味であったが、昭和六十年四月私の転任の際、家内は引越しの無理からか、急に体調をくずし、入院治療、そして人工透析を受ける結果となり、いままで二人で旅行をしていたのが、その機会を失う事となり、私一人が、出張や、その他のことを出歩いていたが、昭和六十三年十月、神戸市で開催された全国小学校長研究大会に、近畿中央病院で

透析を受ける手配をし、それこそしばらくぶりに二人で旅を楽しむことが出来た。

この時に、大阪、札幌と他の病院で透析を受けたことがきっかけとなり、私の定年退職を記念して今回の「沖繩旅行」となったわけである。果して、このツアーがどんな形でなのか、やはり心配であったが、実際に参加してみても、どの人もが、病人という意識を持つことなく、自由に、しかも意欲的にツアーに参加している様子に先ずもって健常者である私自身が感激したということである。

主催された日通旅行の竹田さんや、団長を務めた川村さんの細かい配慮もさることながら、参加者全員がいたわり、おもしろい気持ちを持ち合わせて旅行にのぞんだことがこのツアー成功の一大要因であると感じた。

四月十一日、午前七時二十分、札幌駅集合より行動が開始された



道賢協 沖繩の旅 平成元年4月12日 於：守礼門



ムーンビーチホテル前庭にて
後藤和雄さん、栄子さんご夫妻

が、最初は誰一人知っている人もおらず、簡単な挨拶を交わす程度で車内の人となるが、千歳空港あたりから、お互いに自分の通院している病院のことや、自分自身の病状を通して共通の話題が生まれ、会話ははずみ、途中羽田のりかえ、沖縄まで四時間三十分の行程がまたたくまに過ぎ去った感がある。

幸いに天候はよく、眼下に見渡す青い海原、南の島々に参加者一同歓声をあげるうち、予定通り那覇空港に到着。貸切バスでホテルに、始めて見る沖縄、日本の国と

はいえ、北海道とは全く趣きを異にする、まるで外国に來た様な感じ、札幌の朝とは一変し、ギラギラ光る太陽の輝きと南国特有の熱帯植物群におどろきの目を見張るばかりであった。

沖縄オーシャンビューホテル、設備もよく、ドアボーイも洗練されていて誠に好感のもてるホテルである。第一夜の会食は琉球料理と琉球舞踊の「三重城」(みえぐすく)である。旅のつかれも一度に吹きとんでしまいう程の楽しさであった。

翌第二日、快晴、南部戦跡・紅型工房・玉泉洞・首里城跡・守礼の門と観光するが、あの第二次世界大戦で、日本領土での唯一の激戦地となった沖縄、行く先々で胸の痛むのを覚えたのは私ばかりではないと思う。特に、北霊の碑(北海道出身戦没者の碑)を参拝したときの感情は当時の戦争を知っているだけに感無量のものがあり、戦い散った幾多の戦士に対する心よりの冥福を祈らずにはおられなかった。

この日、家内は沖縄で始めての透析を受けるので、皆さん方と午

後三時から病院に、(帰ってからの話では、とても親切で、不安もなく安心した気持ちで透析を受けることが出来た由)付添いである私や、添乗員の竹田さん、他に付添った二人の方と四人は、夕食を伊勢海老料理専門の「三郎」での海老の味は忘れることが出来ない美味なものであった。

第三日は自由行動、那覇市内を散策する。国際通り・平和通りとショッピングに時間を費す。ほとんどの方々が行く先が同じ、特に平和通りのマーケットではお互いに顔を合わせ、それぞれショッピング情報の交換と、これまた楽しいひとときであった。午後より待望のエメラルドグリーンの海を目ざして一路バスで沖縄北部のムービーチに向う。

途中、嘉手納基地を通過したが、ガイドの説明を聴きながら複雑な気持ちを抱いたのは私一人ではなかったようである。待望のムービーチ到着、ホテルの大きさ、豪華さもさることながら、海の美しさにはおどろく、白砂の浜辺に南国の樹々、四月というのに泳いでいる人達や、甲羅干しの若者た

ち、しばらくはそれらに見とれていたがやがてお互い、カメラマンに早変わり。おもいおもいの「想い出」をスナップにおさめる。グラスポーツで青い海のサンゴ礁を見学する、総てを忘れての楽しいひとときであった。夕食はそれぞれグループで、食後プールサイドでの会話ははずみ夜のふけるのも忘れる。

第四日は、海洋博物館、バイン園、海中公園などを見学、ハブとマングースの決闘も興味深かったがそれにも増して、美しく咲き乱れる南国の花々は北国の私たちにとっては何よりも目を見張るものではなかったかと思う。東南植物園では一段とその感を強くした。

この日沖縄で第二回の透析、病院は二ヶ所に分かれて、(ここも大変親切で安心して透析をうけることが出来たとのこと)。

第五日は自由行動、残念ながら天候は雨、エメラルドの海での期待も雨にはどうしようもない。予定を変えて、琉球村を訪れる。歴史と自然、北海道には無いものをここで見ることが出来る。傘をさして記念のスナップはまたとない

想い出となり、雨降りの天候に感謝したいくらい、午後よりは那覇市内にもどる。

沖縄最後の夕食会をと、地中海料理で、ステーキ、伊勢海老とそれこそ満足、満足、会話もはずみ楽しいひとときを過す。最終日午前八時二十分機上の人となり、一路帰途につく。

千歳空港で、札幌駅でのお別れの挨拶は「この次、またお逢いしましょう」と名残りつきなものがある。私自身、多くの方々との交流を通し、いままで学校という粹しか知らなかった生活から脱却し、自由な明るさの中にそれぞれが生きる喜びを満喫し、夢と希望に満ちている様子に接することが出来たことを心より感謝し、またの機会にぜひ参加させていただきたいと願うものである。



沖縄旅行に参加して

仁愛会外科クリニック
中崎 美津子

今年も沖縄旅行に参加させていただきました。送られてきた資料を見ながら計画を立てたり、友達からも、あれ見てこれ見てとの適切なアドバイス。入りきれないほどの知識を頭につめこんで心はずでに沖縄に飛んでいました。

四月十一日午前七時二十分札幌駅東口集合。昨年の九州旅行で再会を約束したなつかしい顔があそこにもここにも。元気に会えた喜びで抱きあいながらのあいさつ。中にはもう迷子になった人もいたりして。総勢三十名元気にバスに乗り込み、さあ出発。千歳空港から羽田経由で一路沖縄へ。午後二時少し前着陸体制に入る。窓からマリンスプルの海が目飛び込んできた。これが沖縄なのか。

四月十二日皆さんの目が輝いています。元気で早ようのあいさつ、あいさつ。今日は貸切バスで沖縄南部の観光です。南部戦跡。守礼の門。ひめゆりの塔など戦争のキズ跡が四十数年後の今でも生々しく残っていて、戦争の知らない私の心にも乙女達の逃げ場のない悲惨な気持が伝わってきました。また摩文仁の塔では北海道出身の若い兵士が最も多く戦死したことを聞き道産子として、二度と戦争の起らないことを祈らずにはいられません。そうこうしているうちに透析の時間です。看護婦さんの早口で話される方言。最初はチンプンカンプン。また婦長さ

んが患者一人ひとりの足をマッサージしながらやさしく話しかけてくださった気づかいが心に残っております。

四月十三日、今日は終日自由行動です。友達と二人で沖縄を残すところなく見てやろうと決めこんで、タクシーに乗りこみました。ひめゆりパークで見たサポテン。何と種類の多いことか。北海道では見られない海の美しさと原色で色彩られた魚達、サンゴの大きさ。そんな海をグラスボートに二回も乗って三輪バギーでは知らないうちに引き潮に乗って沖に出る。監視人に連れもどされる。今でも鮮明によみがえってくるのは海の彼方に沈む夕日の美しさでした。あの日は、名所めぐりもそこそこにホテルに戻り、何とか夕日を見たの一心でホテルの階段のおどりに正座しながら、海の彼方を見つづけました。待つこと一時間余、雲の合間から真赤に燃えながら静かに沈んで行く夕日を見た。感激また感激そしてタメイキのくりかえし。

特に心に残るのは同じ悩みを持つ者が、旅行という共同行為の中

で励ましあいながら明るく楽しく過ごせたことであります。ありがとうございます。最後はこの旅行中にお世話になりました関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。私もこれから体につけて頑張っていきます。

私の夢！ 南国沖繩旅行

伊達赤十字病院
水口 皎平



ムーンビーチにて、水口皎平さん、ミチ子さんご夫妻

樺太で生まれ、北海道に永らく住んでいる私としては、この度の南国沖繩旅行は若い頃からの夢であった。

四月十一日の出発日は幸い快晴に恵まれ、飛行機の窓から沖繩のきれいな海と島々がクッキリと見えた瞬間、「ああ待望の沖繩に来たなあ」と、さすが飛行機は早い。日

本列島ひとまたぎ」と実感した。

一行三十名は添乗員の竹田さんの計らいで、沖繩料理店で夕食を兼ねて懇親会をした。それぞれの自己紹介があった後、ステージでの空手と琉球舞踊を見ながら沖繩料理を食べたが、なぜかおいしいと思わなかった。

翌日からいよいよ観光である。午前中旧海軍司令部壕や、ひめゆりの塔などの戦跡めぐりをした。戦争末期の激戦の様相を聞き、その悲惨さに胸がふさがる思いがし、心から冥福を祈ると共に、恒久の

平和を願わずにはいられなかった。午後は玉泉洞を見学した。全長五千米のうち観光洞は八百米とのこと、洞内は深くそして大広間を思わせる広い広い東洋一の洞や、地煙の滝、黄金の盃の池、白銀のオーロラなどと数々の見所があり、微妙に色と形の差がある大小無数の鐘乳石が並ぶ様は、まさに大自然の芸術である。

三日目に海岸のムーンビーチホテルに移動した。早速家内と二人で海岸に出て見た。目にしみるようなエメラルドの海と白い砂、そして緑のヤシの木と調和して、まさにこの世のパラダイスである。思いきり深呼吸して気がついた。沖繩の海はサンゴ礁なので昆布もわかめも採れないとか。そのせいか磯の臭いが全くしない。海水は北海道よりかなりシヨツパかった。東支那海に沈む夕陽を眺めながらの夕食は格別の味がした。

後半の日程は曇天ながら、一行は元気で見学を続けた。海中公園では船底が硝子張りになった船で、サンゴ礁の海中にいるいろいろな熱帯魚の遊泳を見る事ができた。熱帯ドリムセンターでは、世界

一大きい温室郡があり、約二千株のランや南国の花々が甘い香りを漂わせて咲き乱れ、特にカトレアが見事であった。東南植物楽園では広大な敷地にトックリヤシ並木をはじめ、数多くの南方植物が配植されており、水上楽園など見事な景観であったが、時間の都合上駆足の見学で残念に思った。

一行の皆様方と交流を深めながら、数々の名所を見学し、楽しい六日間の旅を満喫することができ幸福感に浸っています。今後もより良い自己管理に努め、又の機会を楽しみにしています。希望を持って常に意欲的に生きる為にも、旅行は人生の潤滑油だと思います。なお旅行中の透折では、どの病院でもとても親切にして頂き、心から感謝しています。

最後に大変お世話になった添乗員の竹田さんと、道警協の川村さんに、厚くお礼を申し上げます。どうもありがとうございました。



札幌より…… 太陽の島沖繩

光星泌尿器科医院
佐藤 功

春とは名のみの、未だ肌寒い我が街札幌より、南国太陽の島沖繩へと旅立つ日が、いよいよよきました。青い空、海、ヤシの木、種々のマリンスポーツそしてロブスター、ステーキと想いは果てしなく！道腎協企画の旅行も二回目とあって集合場所の札幌駅北口には、知っている顔もチラホラと見え、一年ぶりの再会をよろこびながら千歳へそして羽田経由で一路沖繩へと向かいました。いよいよ彼の地へ近ずくと、スチュワードスが、あれが与論島、あれが徳ノ島と教えてくれる度に、「ワァー地図と同じ」などとあたり前のことに感嘆してしまいました。降りる順番をまつ

のももどかしく空港を出ると、カーアツと照りつける南国の太陽！と思いきや、ソヨ風が吹きなんと心地よく、チョットと拍手抜け、何やら不吉な予感？！

まずはホテルで荷をときた食までのひと時に那覇の街を散策に、国際通りまで十分チョット、その中に札幌でいえば狸小路の様な市場街があり、昔ながらに、板台に商品を並べ売ったり、リヤカーで衣類を売り歩くおじさんがいたりして、なかなかいい感じ、そして種々のフルーツ、アイスクリーム、ジュースがいたる所で売っているのですが、そこはひとまず目をつ

ぶり（一瞬つぶただけだったりして）……夕食はみなで自己紹介を兼ねて、沖繩料理に舌づつみ（ほとんど甘くてチョットと閉口）翌日は透析までを、島南部観光へと出向き、幾多の戦跡を見物しました。女子学生が自決した自然壕、手掘りてよくぞ造ったと思う迷路の様な壕、みな四畳半くらい部の部屋で、ここが作戦本部、炊事室そして病人ケガ人であふれ、ねることもできず、たっていたという病室等を、うす暗いその中でガイドさんの説明を聞いても、平和ボケした私の頭では、ただその悲惨さに顔がゆがむばかりなのです。そして現代



それらを観光の主な物とし、都市整備も幾分遅れている様に想われ、島中部の広大な敷地には未だ米軍が居すわり、米ナンバーの車が堂々といきかい、それらに半ばたよらざるをえない現実といった沖繩の歴史的位置、矛盾に、未だ戦後は終わりにえずという想いかられるのです。さて観光も終え、二度の透析も無事終え、いよいよフリータイム、スカイブルーの海へ、ところが不吉な予感はこのにきて的中！朝からの雨でビーチは閉鎖、ダイビングもクルージングも全てキャンセル、只ホテルに閉じこめられ、うらめしく海をながめるだけ（誰の行ないが悪いんジャ）、ただ移動した日夕方の三時から「地元のはまだ泳がんですが、北海道からなら大丈夫でしょう」と云う言葉信じ、三時間ほど泳ぎ、水上ロデオに乗ったことで良しと納得させたのです。

道中一度ラーメンを食べたくなりタクシーでおいしい所をたのんだところ、何と札幌ラーメンの店。これには一同大笑い、又どこで食事をとつても、エラク時間のかかること、待ち疲れ話もかたころ

によりやく出来るというこのノンビリさは一体何なのだろう。こっちの生活がせっかちすぎるのだからかとさえ感じさせられました。ともあれ無事に一週間が過ぎ、食べ物だけはしつかりと食べ（飲む物も）、若干マリンスポーツには未練を残しながら帰途についたのでした。青い海、白い砂それらを真紅にそめながら、東シナ海に沈む夕陽！もう一度、ぜひもう一度行きたいと思わされるどころでした。

一生の思い出 沖縄旅行

岩見沢市立病院
相馬 啓子

出発の朝、いつもならまだ夢の中の午前五時。珍らしく目覚まし時計の力を借りずに起き出しました。楽しみにしていた、沖縄旅行

へ、大きなバックと少しの不安をかかえて張り切って家を出たのでした。

透析開始より四年目の私は、「どうじん」の旅行の広告を見るたびに、いつか何処かへ行ってみようと思っていたのですが、今回思い切って沖縄旅行に参加する事にしたのでした。

体調、始めての違う施設での透析、単身での参加など多少、不安や心配もありましたが道腎協の方、添乗員の方、そして透析仲間の方々、皆さんのお陰で本当に安心して楽しい旅行をすることができました。

特に忘れられないのがあの海の色と、白い砂の色。三日目に、別行動で札幌のお二人と同行させて頂いた伊計島という所は、特に強く印象に残っています。天気も良く、人もまばらで、まるで貸し切りのような気分でした。体形を無視して何年振りかの水着姿になり貝殻をひろったり、浅い所でもぐって魚を見つけたり、本当に楽しい一時でした。

そしてその他の印象をいくつか挙げますと、鉄道がない為か車が多い事。現地の人はず話すテンボが



万座毛で、相馬啓子さん

早い割には、生活のリズムがゆっくりで時間をゆっくり使っているようでした。特に買い物の中には少々イライラしてしまう程包装などに時間がかかるのです。あとは植物や花が南国ムードたっぷり、まるで街中が植物園か温室のような木や花であふれていました。

五泊六日の旅の途中、二度現地で透析を受けたのですが、どちらもテクニシヤンの男性が多い事に驚きました。那覇市の三十床程の規模の病院で七・八人。沖縄市の十三床程の規模の病院でも四人の

テクニシヤンがいて、看護婦さんの数と同じくらいなのです。そしてその施設によって、細かい作業方法の違いがあり興味深いものがありました。

以上、大雑把ですが沖縄旅行の感想です。とにかく楽しい旅で、体重を気にしつつも、おいに食べて飲んで歩いて騒いでの六日間でした。思い出の写真を見ながら、是非また機会がありましたら、この様な企画に参加させて頂きたいと思っています。

最後に全道各地から沖縄旅行に参加された透析仲間の皆さん、添乗員の方、道腎協の方色々お世話になりました。楽しい思い出を、ありがとうございます。またいつか、元氣でお逢いできる日を楽しみにしております。



遺稿

白井みねさんより

白井みねさんは、旭川赤十字病院にて、六十年より透析をしていました。この文章は、透析のかたわらいろいろ書き綴ったものです。残念な事に、今年の二月二十八日心不全にて、お亡くなりになりました。透析歴四年 六十四歳でした。

息子と私のおつき合い

白井みね

昨夜、札幌の友人と旭川で久しぶりに再会したので、と、ふぐ酒から始まりおじやで終わる息子の話に、すっかり陶酔した私は、内心とは裏腹に、そっと「飲みしるを」と、いくばくかの話し代が流れてゆくのです。

親も食べたことのない高価なふぐ料理……

一度は何とか……

せめて一品だけでも……

自称食通と思ってる私のくやしさをよそに、内需拡大に協力的な息子は、今日も明るい顔で。

昨夜、勉強会の帰りに、部長先生から葡萄屋のステーキのおいしかった話を。

又、又、友人が四、五人で我家にて、手巻きずしを腹いっぱい食べた話等々。

私は静かに天井を見ながら、しばらく外泊しないうちに、ウイスキーの仲間も黒字国家の将来を憂いている大正生まれのおろかな母親と、奇想天外に明るい内需拡大型の息子とおつき合いに目を細めながら、目減りするウイスキー仲間同志、そっと目くばせしながら静観していることでしょう、と思い、夜のとばりに入りました。

息子と初めて音楽会に行った時のこと

白井みね

「お母さん、今札幌にレオニード・コーガンと云うソビエト一番のバイオリニストと、アイザック・スターンと云うアメリカ一番の方が見えますので、是非息子さんに聞かせてあげて下さい。そう十年もしましたら、又日本に来た時には、今とどれ位違った感じがするか、是非々々。」と云われたのは、息子がバイオリンを教えていただいていた佐藤先

生で、息子が小学校五年生の時でした。

音楽会と云う場のことを知らない私達にとつて、服はせめて新しいのを一着とか、かざりのネックレスもつけて、などとせいっぱいの気の張りようで、息子と二人午後の急行列車に乗りました。

会場に来るまでのあわただしさが恥しい位二時間の静寂な音の世界に、私たち親子の帰りの列車は無言に近い静かなものでした。

あれから二十数年も過ぎ、大音楽家にはなれなかつた息子と、「今日は母さんの好きな『タイスの冥想曲』を。」とか、それから私が若い頃好きだった『ソルベイジの歌』などがあまり音の世界にくわしくない私の気持ちをお安らかにしてくれる、息子と私の今日比の頃です。

若いともだち

白井みね

「おばさん気象情報が急に変わりましたので、これからとまりに行きますので、いいで

しょうか。」時は夜の九時、場所は芦別岳の入口付近のようです。

「なんですか？」

「僕を入れて五人です。」それじゃいつものように裏口に新聞をひいておきますので、そこに、どろのついたものをぬいで風呂の所には五人分のパジャマをおいておきますので。もうこれだけで二人の会話は終わりなのです。今から思えば、昭和五十年の頃だったでしょうか。家についてからの、山登りの五人分の食事、飲みものことは一寸省略して、私が息子の友人で一番気に入ってるのは、この五人の山岳部なのです。

- ・一見きゃしゃな音楽部。
- ・セーターのモダンなテニス部。
- ・たくましさの漲るスキー部。

・余興のうまい各グループの人達。

富良野はスキー場があるという名目で、いろいろの方が私の家をたのしませて下さいました。

山岳部がドロンコの服をぬぎ風呂に入り、

さつぱりしたパジャマでウイスキーの瓶を次々からにした頃は話はずみ、私も一ぱしの山の仲間のように、「あなた方は『山がそこにある』から登るのですか？」

「おばさん、それは違う。あの朝の御来光を拜んだ時は、此の地球上のわずらわしさがすべて消えて、一瞬なんともいえないですよ。」

私はこのごつい山男達に、こんなやさしい気持ちかひそんで居たのかと。山のことをあまり解らないのに、ちよつと恥しい思いをしたことも、今にしたらなつかしい思いになつて居ります。

・遠藤高夫さんが、此の春から内科医局長さんに。

・松田整二さんは札幌で近々開業するそう

で。
・音楽部の広瀬さんは泌尿科の、青木さんは整形の各医局長さんに。

・大坊さんは脳外の医局長さんに。
近頃、次々と新しいニュースが入って参り

ますけど、私の体にはあの若いともだちと一緒にに歌った吉永小百合の「寒い朝」の一節だけが、いつまでもさわやかに残つて居ります。若いともだちよ、いつの日か、又お会いしましょう。

ゴリラさん

秋の日の午前中、動物園で大変なことがおこりました。

ゴリラの運動場をのぞきこんでいた女の子が、誤つてゴリラの中に落ちこんでしまったのです。

運動場には体重一〇〇キロもあるゴリラの「オス」と体重八〇キロの「メス」の二ひきがい

ます。大騒ぎになりました。女の子のお母さんは、驚きのあまり氣を失つてしまいました。ゴリラの「メス」がゆっくりと立上がり倒れている女の子のそばに近づきます。

「早く、助けてせよ何かしろ！」口々にさわぎますが、どうすることもできません。ゴリラのあの大きな「きば」でかまれたら

女の子はひとたまりもないでしよう。

ゴリラの手が女の子にとどきました。

「あつ神様！」みんな眼をつぶつてしまいます。しかし女の子の悲鳴は聞こえません。

おそろおそろ眼を開けますと、何んとゴリラは女の子を優しく抱きあげ大事そうにかかえて運動場の上に運んできたのです。

そして中に入つて行つた飼育係のおじさんに、女の子をそつと渡してくれたのです。

ありがとう！見ていた人々はみんなやさしいゴリラに拍手をおくつたのです。

（私が聞いたお話です。岩崎）

J R 運賃割引

内部障害者も適用へ

J R 六社は四月二日、旅客運賃の身体障害者割引制度に、これまで除外されていた内部障害者を適用する方針を固めました。近く運輸省に認可申請をします。

今回新たに対象になるのは、腎臓、心臓、呼吸器、膀胱または直腸、小腸機能の障害があり、身体障害者福祉法に基づく一、四級の身体障害者手帳を持つ人たちで、約二十九万人になるとみられています。

身体障害者の運賃割引制度は、国鉄時代の一九五〇年から実施されていましたが、当時、対象になつていなかったのは視覚、聴覚、言語、

平衡機能、肢体不自由などの障害で身体障害者手帳の交付を受け、た外部障害者のみでした。

一九六七年以降、呼吸器、心臓、腎臓などの内部疾患が身体障害者福祉法の対象になつても、主に国鉄の財政上の理由から内部障害者は除外されつづけ、全腎協など関係団体は再三にわたつて国鉄や運輸省に是正を申し入れてきました。

とくに国鉄の分割・民営化を契機に全腎協は J P C など関係団体と協力して、国会請願、地方議会請願、J R 各社への陳情、運輸省への陳情など J R ・航空

運賃、有料道路料金の身体障害者割引制度に内部障害者を適用させる運動を強化にすすめました。これが実現すると、内部障害者の通院や通勤などの経済負担を軽くするとともに、社会参加をすすめる上で大きな成果です。

今後、この制度が正式に発足するのは J R からの認可申請が運輸省に提出され、認可されてからになります。航空会社、有料道路料金などとの兼ね合いから手続きが難行するとの見方もあり、運輸省への陳情など、より一層の運動の強化が必要です。

「初診日確認」で社保庁が見解

問診によるものでも「診療録で確認」

昨年来、事後重症による障害厚生年金の裁定請求をした会員が初診日欄を「本人の申し立て」とする診断書を提出したところ初診日

を証明する書類の提出を求められ、病歴が古くて証明ができない場合は請求書類を返却されて受け付けを断られる事例が相次ぎました。

全腎協では去る三月十五日、第三回目の社会保険庁交渉を行い、社会保険庁から「患者が A 病院から B 病院に転院している場合の、

障害年金の裁定請求時の診断書の初診日欄は、B 病院での初診時に医師が患者への問診によって A 病院での初診日などを確認したものが診療録に記載されている場合、それに基づいて記載する初診日は、『診療録で確認』する。また、「患者が A 病院から B 病院に転院している場合、紹介状によって初診日が明らかな場合も『診療録で確認』とする」との見解を得ました。

裁定請求・現状届等提出する時の診断書はコピーを必ず取ると、後に再審査の時に便利です。

不明な点があれば事務局までご連絡下さい。

物品税減免制度は廃止

消費税の新設により、これまで下肢・体幹障害者を対象に減免されていた小型普通乗用車や、盲人対象の盲人用電磁調理器、テープレコーダ等々の物品税減免制度は廃止されて、消費税が課せられることになりました。

このほど、日身連自動車協会が入手した厚生省の資料によりますと、物品税廃止によって下肢・体幹障害者等が自動車購入時の負担増に対処するために①自動車改造資金の助成枠を充実させるとともに、新たに②世帯更生資金貸付制度の中で「自動車購入資金」を借りることになる。としています。

②の貸付制度では、対象者は自ら運転する身体障害者とし、所得制限はなく利率は年三%、償還期限は六年以内となっており、貸付限度額等は今後の詰めとしたいとしています。

詳細は、事務局にお問い合わせ下さい。

編集後記

○今回初めての編集に参加して大変な仕事だなあと感じました。ダンスの練習も忘れて没頭しました？

○オーイ夏だゾー水分管理が楽になる。でも暑いのはキライだあー、だけど、夏は暑くなければ…。

先日総会で埼玉に行つて来ました。北の国から行くと湿度を肌で感じました。

埼玉友会の皆さんごころうさまでした。(K・N)

○手根管症候群の手術をしました。長期透析をしていると色々

な症状が出て来ます。みなさんも気をつけて下さい。(鈴木)

○一年で一番好きな季節になりました。自然に親しむ意味で、山菜狩りなどいかがでしょうか。

でも、決して乱獲やゴミの投捨では禁物です。

自然に溶け込んで生命の洗濯をして下さい。(村本)

○六月になりましたね。世間では、ジューンブライドといって、結婚シーズンだそうですが、編集部にも約何名か独身がいます。

結婚しましたノなんていう明るいお話がありましたら、ぜひ、聞かせて欲しいですね。(A子)

★お願い★

●投稿募集●

機関紙「どうじん」への投稿を募集しています。どんな事でもいいです。透析の事、日常生活の事、趣味、特技、旅行、仕事、その他、イラストなども募集しています。

患者さん、ご家族の方、スタッフの方などどしどしお寄せ下さい。また、「どうじん」を読んでの感想、意見、要望などもごさいましたら、お寄せ下さい。

表紙の写真

札幌市の河口内科クリニック院長の河口先生の作品です。

〈メインスローガン〉
今集う 夢の大空 希望の大地 明日を求めて IN とかち
第16回難病患者・障害者と家族の全道集会

〔参加申し込み要領〕

1989年**8月5日**(土) 十勝川温泉笹井ホテル(レセプション・分科会)
6日(日) 音更町立共栄中学校(分科会)
音更町文化センター(全体集会・分科会)

〈参加費用一覧〉

第1日宿泊費 (朝・夕食・レセプション含)	8,800円	9,600円	ツ ア ー	1泊	2泊 ツ ア ー
全体集会(昼食代含)	800円				
バス往復(保険料含)	10,500円	大人	15,000円		
バス途中食事	800円	子供	10,000円		
バス帰り食事	800円				
第2日宿泊費(朝・夕食含)	7,500円	大人25,000円・子供15,000円			
レセプションのみ参加の方は	3,000円	バスを利用しない方は、バス代および途中食事代を除いて計算します。			
合 計					

《記念講演》

元池田町町長、参議院議員
丸谷金保氏(ご依頼中)

《アトラクションご協力》

5日 ベアーズ、ハーモニカクィンテット
6日 東土狩獅子舞
音更バトントワラーズ

《主なスケジュール》

5日(土) バス出発(札幌10:00、他に函館、旭川、室蘭、釧路から)
18:00歓迎レセプション(於笹井ホテル)
6日(日) 9:30分科会(共栄中学校、文化センター)
12:30全体集会(音更町文化センター)

※救急班の医師、介助ボランティアを用意しています

《分科会開催予定》

個人参加部会、ダウン症、筋無力症、多発性硬化症、膠原病、パーキンソン病、リウマチ、ベーチェット病、後縦靭帯骨化症、脊髄小脳変性症、側わん症、バージャー病、血友病(未定)二分脊椎症、筋ジストロフィー、心臓症、未網症、てんかん、人工透析、ウィルス性肝炎、再生不良性貧血

参加申し込みを早めに

バス、宿泊、食事の用意がありますので、できるだけ早めにお願ひします。

参加費は請求書を発行しますので、郵便振込み等をご利用下さい。

参加取消しの場合は(3日前まで)払いもどしをいたします。詳細はなんれん46号で。